CI/CDについて

CIは継続的インテグレーション(Continuous Integration)、CDは継続的デリバリー(Continuous Delivery)と呼ばれる。

CIは開発者がコードを修正し、それをリポジトリにプッシュした際に、自動的にビルドやテストを実行するプロセスの仕組みである。これにより、継続的にテストが行われてコードの品質を高く保つことが出来る。

CDはCIによる統合や一体化をさらに拡張したもので、より高度で自動的にシステムに反映されるように設計された環境や概念である。要するに、CIを使いやすく改造しより多くのことが出来るようになったものと言えるだろう。

近年は著しい変化が伴う開発環境で、開発中に急な変更が生じることが多々ある。そのため、従来のウォーターフォール型の開発手法では急な変化に対応ができない。なので、常に変更とテストを繰り返しながら開発を進めていくアジャイル開発が主流となっている。

CI/CDはアジャイル開発と相性が良く、ビルド、テスト、デプロイなどを一体化し、これまで手動で実施していた介入のほとんどを自動化できる。

GitLabでの(イシュー)issue

GitLab上でのissueはタスクを指す。issueの作成により、タスクの明瞭化や実装漏れの削減なども期待できる。要するに、説明や報告を分かりやすく伝えるものと考える。

作成時の要点として、タイトル、タイプ、テンプレート、説明、担当者、期限、マイルストーン、ラベルを例に項目として設けて、それぞれ分かりやすく書くことをポイントとする。

活用方法として、新規機能開発時に実施する内容や注意点などを記載したり、バグ修正時に項目内容に沿って不具合修正に必要な情報などを記載したりと、他の人が見た際に分かりやすく情報を書いておくと良い。